

日時：平成 17 年 5 月 23 日（月）

13:30～16:30

場所：ホテルアイリス 2 F 菖蒲の間

第 1 回 子吉川河川整備委員会 議事概要

治水について

治水対策について

地域地形に応じた治水対策が必要である。

- ・子吉川の場合、雨が降ると一気に河口まで流れてきてしまうことから、少ない雨でも洪水になりやすい。どうやって被害を抑えていくか、あるいはどこかへ逃がしてやるという対策は急務である。
- ・子吉川は資料のとおり非常に急流河川である。同じ急流河川といっても、常願時川は本当に滝のような川、どこを見ても石ころだらけ。一方、子吉川はそういったところがない。しかも、川岸まで人々が住んでいる。ここからわかるように、子吉川流域は、保水機能というか、森林が鳥海山麓に発達しており、それを緩衝する自然の力が非常に大きいのではないか。
- ・この間初めて常願時川を見てきたが、写真等で比較できれば、理解してもらえないのではないか。
- ・中流域では河岸段丘をうまく利用された治水の方針は、理にかなった方法ではないかと思う。
- ・安全で安心できる川づくりが第一であり、これに関する説明をもう少ししてほしい。

火山による融雪への対応を検討するべきである。

- ・昭和 49 年のように鳥海山が噴火した場合、特に積雪期に噴火すると、積もっていた雪が一気に解けるなど、大変な災害になることが予想される。何百年に 1 回かもしれないが、このような大規模な災害を踏まえて治水、利水を考える必要性も検討してほしい。

他地域など既往洪水の分析の上での対策検討が必要である。

- ・昨年の新潟、福井、福島のような降雨が秋田であった場合にはどうなるのか、その知見を早く収集して、何が破堤、越水、溢水に至った原因なのかということを検証してほしい。

水防活動・ハザードマップについて

水防団の高齢化に対する対策が必要である。

- ・秋田県の社会情勢を見ると、高齢化が深刻で本当に水防団に期待できないため、これを補う手段を、堤防の構造なり他のことで補う必要がある。

ハザードマップの見直し、ケアが必要である。

- ・（旧）本荘市では洪水ハザードマップをつくっているが、市町村合併したことにより、洪水ハザードマップの見直しが必要である。また、住民への普及状況の把握とそのサポートが足りない。

利水について

利水に役立つ降雨情報があれば教えて欲しい。

- ・近年、洪水、台風、塩害、塩水遡上などいくつかの複合的に災害が重なって発生している。最近の県内での降雨の特徴を把握して取水導水の仕方など灌漑に関わることで農家の方々にも防災上役立つ所見があれば教えて欲しい。
- ・水力発電や頭首工の取水、排水の量と位置に関する資料の提示が欲しい。

河川環境について

自然環境と整備との関わりのメカニズムに関する説明を充実するべきである。

- ・環境に関する説明がものすごく不足しているという印象を持った。特に、河川法が改正されて環境に対する配慮が追加されたことが今までいろいろな機会で行われながら、河川整備計画の話になると、いつの間にか環境の話がなくなってしまう。
- ・ハード的な整備により、瀬、淵、河川敷など非生物的環境に手をつけることが生物的環境に影響を与えるというのは当然のことであり、その関係を説明してほしい。

子吉川の河畔植生は復活してきている。治水とのバランスを如何に図るべきかが難しい。

- ・12年くらい前は子吉川の河畔植生は寂しかったが、最近では復活してきている。治水を考えると、どこで環境と治水の接点をどのように設けるべきかというのが難しいと思う。
- ・これだけの植物が生えているのであれば、鳥や他の動物たちも生息している。その状況の調査をした上で、植生をどのようにするのかを意思決定していかなければならないと思う。

自然と人間との共生を広域的に展開してほしい。

- ・国土交通省で5種類のハープを植える計画のあるゾーンの中にヒバリの巣が1個見つかったが、ひなが一人前になって巣立つまでの間、工事を中止するというご配慮を秋田河川国道事務所からいただいた。子吉川河川懇談会の提言において「自然と共存のできる川づくり」というのが基本方針にあるが、自然と人間の共存の川づくりという点でよかった。
- ・ヒバリは堤防全体の草原に生息している。堤防の草刈りを6月いっぱいまでに1~2回やるが、そのために失われる命は相当なものである。人夫を頼んで草刈りをさせると、無意識のうちに鳥獣保護法に触れる行為が行われており、これは見直していただきたい。

環境のモニタリングの充実とその活用による川づくりを進めて欲しい。

- ・整備の目標に今あるもの、現状の自然をきっちり把握する、あるいはモニタリングを経時的にやっていく中で、やらないこと自体がどれくらいに重要な意味を持つのかという視点も大事ではないかと思う。

良好な水質の維持を図って欲しい。

- ・子吉川のBOD値をみると、本当に自然に近い水質の川が流れている。この水質を維持

していくことを考えていただきたい。

・流量が豊かであって、水がきれいであるということが癒しの川の第一条件であり、この子吉川ではうまく実現されている。そういった機能を生かすような、うまく自然の地形を利用した河川整備計画をつくっていききたい。

自然をどのように守るのかを具体的に計画していくべきである。

・誰がこの整備計画を保証するのか、あるいはこの責任を持つのか。生物を守るという言葉だけで、生物、環境は整備できないので、その目標なり実際の実施に関する事項の中で具体的な部分も入れていく必要があるのではないかと。

環境（人と河川とのふれあいの場）について

癒しの川づくりを上・中流の各地へ展開して欲しい。

・子吉川は最近、本物の癒しの川にだんだん近づいてきたなと思っている。心の癒しを求めて毎朝散策される方々、楽しんでおられる方が増えてきた。

・子吉川には上流、中流、下流と癒しの川の箇所以外でも、良い区間があり、大都市の人方にとっても癒しのある子吉川として挑戦してみたい。

人々が楽しめるための川づくりを。

・洪水防止、利水といった観点も必要ですが、市民に親しまれる空間づくり、親水空間、あるいはせせらぎの空間づくりといった分野での利用が進んでいくのではないかと。

・会員が千人以上いるので、会員全員で子吉川をきれいにし、魚のすみよい川づくりに励んで、みんなで楽しんでもらいたいと考えている。今後はいろいろな魚も放流するが、カニも今年から新しく放流する計画である。)

流域の歴史文化について

既往の資料公開による認識強化へ。

・子吉川の歴史、あらましについては、「子吉川」という冊子が非常に充実しており、これをまとめて一般の人に提示すれば、子吉川に対する認識が深まっていくのではないかと。

鳥海ダムについて

早期着工を望む。

・鳥海ダムについては、ダムがあって、河川の維持用水が流れてくれば、4年に1回の湯水、塩水の遡上の問題などは解決できるし、河川水のコントロールができるようになる。着工するまでに、また、満水になるまでには時間がかかる。だからこそ早く着工しなければならない。

・子吉川が急流であること、さらに鳥海山の山麓にはたくさんの雨が降ることを考えると、ダムをつくって、その水を蓄えることは非常に合理的なことだと思う。

- ・ 昨年は非常に自然災害、特に洪水による災害が多かったが、山に集中豪雨が降ると、鉄砲水のような濁流が来る。鉄砲水の事故での被害もあるので、急激な鉄砲水を防ぐにはやはりダムのような整備を、きちんとした位置づけで進めていただきたい。
- ・ 鳥海ダムをつくるということを前提にして水量調整しているが、鳥海ダムで洪水調節などをやれば、どの程度植生が保護できるかというのも数字で出てくると思う。そのデータは欲しい。
- ・ 鳥海ダム調査事務所が設置されてから 12 年になり、いつダムに着工するのか、地域の人々の将来設計で頭を悩ませているということを知っている。

検討の視点について

森（山）・川・海までの一体的な視点が必要である。

- ・ 川だけではなく、国有林管理を初め、森林から海岸まで、やはり流域保全と水田の涵養を含め、農水省と一体となった取り組みが必要である。また、森林の保全、整備というものがきちんと守られてくると、海や川の魚といったところまで絡んでいくと思う。
- ・ 海、山、川、森との関係、川だけではコントロールできない部分を念頭に入れるべきなのではないか。
- ・ 子吉川本流も大事だが、同時に左岸、右岸に展開する田園空間の面的な広がりについても、やはり治水、利水、環境、そして連携がとれた郷土づくりを考えなければならない。

予防、治療、ケアの視点での川づくりが必要である。

- ・ 医学で言うと、予防医学と臨床医学とケアとがあります。河川で整備計画を立てるときに、そういう視点で整理して欲しい。

国・県・市・住民の協働による川づくりが必要である。

- ・ 子吉川全域を考えていくときには、国と県と流域全域ということで、連携をとりながら進めて考えていくことをお願いしたい。由利本荘市では、今までの本荘市という狭い地域という考え方から、子吉川全域という考え方でどう進めていったらいいのか、市民団体の側からの課題だろうと思う。
- ・ 沿川の方々が、川について認識を新たにし、国が整備してくれるという安心感ではなく、整備して欲しいという行動を示していかなければならない。

環境のため「やらないこと」を明確にする。

- ・ 整備の目標というと、ああやります、こうやりますという話になると思うが、むしろやらないことも目標になるのではないか。つまり予防的な対応、現状をどうやって守っていくのか。何もやらないで守ることは非常に少ないお金でできるという部分を考えるべきだと思う。

その他

- ・子吉川は洪水調節と、それから利水、治水という面で、まだまだ河川の整備をしなければならぬ。
- ・安全・安心の川づくりということですが、そのほかに「快適」だとか「美しい」という言葉を入れていただきたい。
- ・子吉川の整備計画が地元にこういうメリットがある、東北全体で整備することがどういう意味があるとか、あるいは秋田県全体でどういう意図をするのかを少し大上段に書いておいたほうがいいと思う。

国土交通省 各委員からの発言

東北地方整備局河川環境課長

- ・今回の正常流量も、その河川の動植物の関係、それから漁業との関係で先ほどの 11m³/s という流量が決まっております。この整備方針の中にうたっておりますが、産卵場などを考慮しながら整備計画の策定において御指導をよろしくお願ひしたいというふうに思っております。
- ・川の利用ということで、西滝沢から当然アクアパルまで、いろいろ川で利用する施設が整備されておるわけですが、今も利用されておるわけですが、上下流一体となってもう少し活発に利用できるような仕組みづくりが必要かなというふうに考えてございます。
- ・水質という観点では、河川管理者のみが頑張ってもどうにもならない状況であり、流域全体で取り組んでいく必要があるかと思ひます。ごみの関連、家庭から出る排水の関連を地域と一体となって取り組んで、良好な水質を守っていく必要があるのではないかと考えております。

鳥海ダム調査事務所長

- ・次回以降、鳥海ダムを建設位置づけた意味ではっきりと御提示申し上げて皆さん方の御意見を賜るといふことになろうかと思ひます。
- ・鳥海ダムの調査事務所としましては、この整備計画が最終的に策定されて、各住民の方々から意見をいただいて、問題ないという形になる暁には、鳥海ダムを位置づけていただければなと思っております。

秋田河川国道事務所長

- ・ハザードマップのようなソフトが、どういふふうにな地域に親しんでいるのかみたいなものも、やはり定期的にチェックしていくような仕組みを整備計画の中で位置づけていくのかなと思っております。

東北地方整備局河川部長

- ・大上段な議論、海・山・森を一体化して考えるべき、さらに幅広い視点、単に直轄管理区間ではなく、県管理まで含めて全体的に考えなければならない。しかし、そういう意味では懇談会でかなり議論した上で基本方針はできているものと理解しております。
- ・足りない部分があれば、基本方針をその範囲内で補うというのが河川整備計画の法律的な位置づけであり、この委員会の場でいろいろ議論をしていただくのは、これは非常にありがたいことなので、それは全く制約がかかることはございません。
- ・整備計画に書き込む場合になりますと、その基本方針を完全に逸脱したようなことは、なかなか項目としても書きづらいついといろいろございますので、そこはうまくアウトプットの出し方を工夫する必要があるのかなと思っております。

(以上)